

ビ

ー

だ

ま

ビーだまのように、キラリと光る一冊を

2022年1月～12月に発行された本の中から、とくにおすすめの本を紹介します

<編集・発行> 富山市立図書館 富山市西町5番1号

電話 076-461-3200

令和5年4月21日発行（年1回発行）

ぶるばびぶーん

ささきしゅん／さく 福音館書店



まっ赤な車が「ぶーんぶん」と進みます。ど
んどんスピードが速くなって「ぶるばびぶー
ん」と煙をあげて走り抜けます。おととと、
赤信号では、ちゃんと停まりますよ。

シンプルな形と走行音のオノマトペで、爽快
に走る車を表現しています。

[赤ちゃん～]

あなのなかから…

さいとうしのぶ／作 あすなる書房



地面にぽっかりと開いた穴。ページをめくるとモグラが「ばあ！」と飛び出してきました。壁の穴からは、ネズミが「ばあ！」。塀の穴からは、ネコとイヌが。次は氷に開いた3つの穴。いったい何が出てくるのでしょうか？

登場する人や動物などのユーモラスな表情や、繰り返しが楽しい絵本です。

[幼児～]

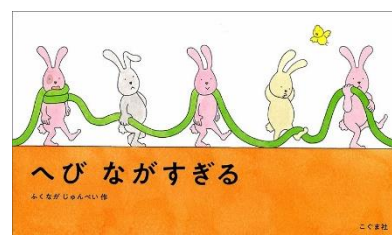
へび ながすぎる

ふくながじゅんぺい／作 こぐま社

ながーいながーいへび。長すぎて動物たちは、だれもへびだとは気づきません。うさぎは大なわとび、ゴリラはブランコをして、へびで楽しく遊びます。最後にへびだと知った動物たちはびっくりぎょうてん。

最後のひとひねりにあっと驚く絵本です

[幼児～]



ゆかしたのワニ

ねじめ正一／文 コマツシンヤ／絵 福音館書店



ぼくは、夜になるとワニのハミガキをするために、七つ道具を持って家の床下へ降りていきます。ワニに噛まれないよう、あごにつっかえ棒をしてから口の中に入ります。

ワニに食べられないよう、様々な道具を駆使する男の子の手慣れた様子にワクワクする絵本。

[幼児～]

こんとごん てんてんありなしのまき

織田道代／ぶん 早川純子／え 福音館書店



きつねの「こん」と「ごん」は、似ているけれどちょっとちがう。こんはドアを「とんとん」とたたくけれど、ごんは「どんどん」。似た言葉でも、濁点がつくと意味や印象が変わります。

左右のページを対比させて、清音と濁音を紹介する言葉の絵本。

[幼児～]

はだしであるく

村中李衣／文 石川えりこ／絵 あすなろ書房

はたけのカラスを追い払った拍子に、長靴が脱げてしまった女の子。はだしのままカラスを追いかけると、畑の土がぐにやり。葉っぱのうぶ毛があたり、ちくちくぞわぞわ。

足の裏に感じる土や草、小石などの大地の感触をダイナミックな絵で表現しています。

[幼児～]



むぎばたけ 麦畑のみはりばん

ベス・フェリー／文 テリー・ファン／絵 エリック・ファン／絵 化学同人



黄金色の麦畑に、ぽつんと立つかかし。ひとりぼっちで動物たちが近寄らないよう畑を見張っています。あるとき、かかしは落ちてきたカラスのひなを大切に育て始めます。

移り変わっていく四季の中で、かかしとカラスの出会いと別れを描きます。

[幼児～]

とびらのむこうにドラゴンなんびき？

ヴァージニア・カール／作・絵 松井るり子／訳 徳間書店



むかし、ある国のお城に 13 人のお姫様がいました。ある日、森でドラゴンを見つけたお姫様たちは、仲良くなったドラゴンをこっそりお城へ連れて帰り、塔の中に隠してしまいます。

緑色を基調にしたシンプルなイラストが、ユーモラスな物語を引き立てています。

[幼児～]

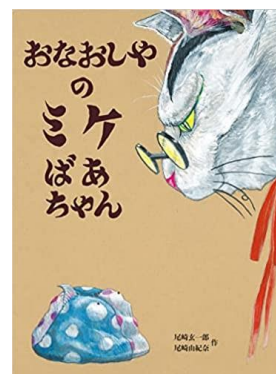
おなおしやのミケばあちゃん

尾崎玄一郎／作 尾崎由紀奈／作 偕成社

お客さんの少なくなった古い駄菓子屋に住む、おばあちゃんねこのミケ。飼い主が寝ると、ミケは床下の仕事場へ向かいます。そこは、古いおもちゃを修理する「おなおしや」なのです。今晚もメンコやお手玉が運ばれてきました。

駄菓子屋を舞台にしたファンタジー絵本。

[幼児～]



ホホジロザメ

沼口麻子／文 関俊一／絵 福音館書店



広い海に現れた大きな影。海面を泳ぐオットセイに忍び寄るのは、ホホジロザメです。

ホホジロザメの大きさは最大6メートルにもなり、世界中の海に生息しています。

捕食場面や産卵の様子など、ホホジロザメの生態を迫力のある絵で紹介します。

[幼児～]